

郷愁

これは、本当に
事実を映したもののなのか
それとも絵空事なのか
確信をもって言うことができない

私が忘れてしまったものは、もはや
現在には残っていない、と
死の間際に駆け巡る走馬灯とは
かくありなん、と

(ミッシングリング)

撮影者である私の声
確かに見覚えのある人々の顔
笑い声、歌声
融けてゆく、それら

現在と何ら変わりのない風景に
過去の者たちがいる
現在の自分とどのように関連しているかを
私は理解することができずにいる

(現に存在している、ということの揺らぎ)

世界は勝手に活動しているらしい
よそよそしく
ぐるぐると回転するディスク——
そこから弾き飛んだ者としての私

(あらゆる絆とは無縁な)

窓の外は快晴で
眩しく輝いている

(2012.4.8)